

安保法案「整合性ない」民主・藤田氏

国会通信

茨城選出の議員

民主党の藤田幸久氏(参院茨城)は16日、参院外交防衛委員会で質問に立ち、安全保障関連法案について、1972年の政府見解で集団的自衛権一般を否定する一方、昨年7月

の閣議決定で限定的な集団的自衛権を認めたのは整合性がないと強調した。横皇裕介内閣法制局長官は「新3要件は憲法9条でどこまで武力行使が許されるかという憲法解釈を述べており、これまでの憲法解釈と整合している」と従来の主張を述べた。

藤田氏は、多くの憲法学者が同法案の違憲の可能性を発信する現状から法的安定性がなると指摘。武力行使の新3要件で集団的自衛権の一部を限定的に認めることについて「法